

パハル・フェスタ開催までの経緯

「パハル・フェスタ in 九重」を、4月29日(金・祝)16時より、法華院温泉山荘で開催する。開催までの経緯をお話したい。

「一年の計は元旦にあり」とか言われても、なかなか計が立つものではない。「ガキ大将宣言」は、2007年元旦に思いついた計。

「バイタリティーやフレキシビリティを失っていく世の中に、どうやって歯止めをかけるか。国民の一人として政治家に注文を付けるだけでなく、自らも行動すべきだろうと考えた。これまでだって行動してきたつもりだが、まだ不足なんだと考えた。どうする。

『再びガキ大将になること』が、出てきた答えだった。

若きばかりでなく、昨今は若くなくなった方々までバーチャルリアリティーの世界にとじ込もってしまうから、自分も社会も元気がなくなってしまうのではあるまいか。俺がガキ大将になって、みなさんを山へ連

れ出す。『一億二千万人総登山者化計画』である。山はいい」と、2007年産経新聞元日号の都内版に書いた。

が、2007年の一年間は実際の行動は何もできなかった。2008年はボチボチ。2009年になって、ようやくコンセプトがまとまった。実際的な行動として、「みんなで登ろう、ぼくのふるさと八百名山」を考えた。

2010年元旦はポカラで迎えた。朝、頭に浮かんだ言葉が二つ。一つは、「個の時代から、輪の時代へ」。もう一つは、「見物客になるな、プレイヤーになれ」である。一人では何もできない。「一億二千万人総登山者化計画」のアピールを買って出してくれる奇人が現れて、言葉ばかりが先行する岩崎であったが、昨年から少しずつ具体的な行動が起こせるようになった。その一つが、「安心登山講座」の出前。

2月は、アルパインツアーサービス㈱の協賛を受け、宮崎と福岡とで出前講座を開講した。若い頃、山岳会で活動していた方々は読図の知識をお持ちだが、昨今始めた方の多くは、知識不足のようにお見受けした。山岳会全盛時代には、そこが登山の基本を学ぶ学校だったが、山岳会が衰退している現在、技術、知識、モラルを学ぶ場がないのである。手前味噌ではあるが、出前講座の必要性を痛感させられた。

昨今、山を始めた方々のための「学ぶ場」は、出前講座で確保する。もう一つ、みんなで「山を考える場」が必要ではないか。仕分け作業で切り捨てられないように、山のトイレや自然環境について、みんなで考え、意見を持ち寄る場、きっかけ作りにもなりうる場として、「パハル・フェスタ」を考えた。パハルとは、ネパール語で、「たおやかな山」。その第1回目が、「パハル・フェスタ in 九重」である。

詳しい案内は、無名山塾事務局にご請求下さい。パハル・フェスタを全国各地で開催できたらいいな、と思っている。